# ｺﾞﾏﾀﾞﾗｶﾐｷﾘの発生の早期化

ｶﾝｷﾂ栽培において、ｺﾞﾏﾀﾞﾗｶﾐｷﾘは一度（1頭）の被害でも、樹体を大きく損ねることがあり防除対策の必要な重要な害虫である。幼虫が大きな被害をもたらすことから、防除は産卵開始前の成虫を対象に行うと効果が高く、発生時期の把握が重要である。

## ○成虫の発生と防除時期

羽化した成虫は、10日程度、葉や枝の表皮を食害（後食）した後、産卵する。成虫に対する防除は、**産卵が多くなる直前の時期**に行うことが望ましい。

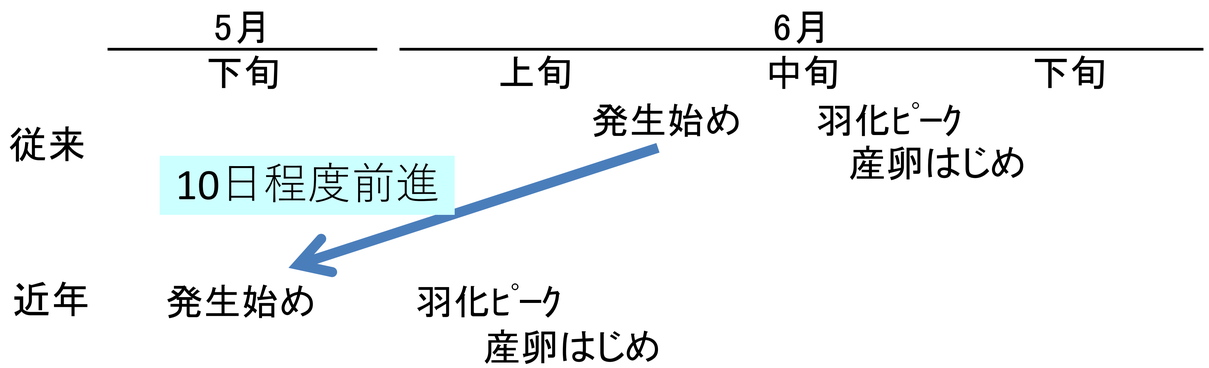

写真　成虫（左）と成虫による食害痕（右）

成虫による食害痕は、**発生時期や量を見極める目印**となる。 成虫は白筋の入った2～3年目の枝をよく食害する。

果樹研究ｾﾝﾀｰ付近では、以前は6/7~10日頃から発生し始め、6/15~20日頃に多くの成虫が見られていた。しかし、昨年、今年と**5/25日頃より発生が始まり、6/5頃には成虫が多く見られ**、発生時期の大幅な**前進化**が認められる。

近年の発生傾向から7、6月下旬の防除では遅い。防除はﾀﾞﾝﾄﾂなどのﾈｵﾆｺﾁﾉｲﾄﾞ系薬剤の他、ｴｸｼﾚﾙなどが有効であるが、**気温が低く湿り気が多い状態では防除の効果が低**くなりやすい。このため、2～3日晴れ間が続く日の防除が望ましい（薬剤により弱った成虫が、低温・多湿な状態では回復することが観察される）。